



弥生の出雲王に出会える

季刊

第41号

(2021年4月)



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

出雲弥生の森まつり2021

4月29日(木・祝) 開館記念日

オープニングイベント

出雲商業高校

書道パフォーマンス

10時～10時20分

子ども獅子舞

三谷神社獅子舞保存会

10時35分～10時50分



書道パフォーマンス ▶子ども獅子舞

西谷墳墓群史跡公園ガイド

10時～14時

花谷館長が常設展をご案内!

館長ガイド 11時～12時

ギャラリートーク

春季企画展 12時～13時

ギャラリー展 13時～14時

バックヤードにはいれるぞ!

博物館探検隊 11時～12時

よすみちゃんクイズ 13時～14時

ものづくりたいけんが大集合!

古代体験フェスティバル

10時～14時

和同開珎づくり

古代出雲歴史博物館

まが玉ネックレスづくり

八雲立つ風土記の丘

フラ板づくり

荒神谷博物館

まが玉消しゴムづくり

出雲弥生の森博物館



まが玉ネックレス

フラ板

和同開珎

「わたがし」サービスあります▶

有料 屋台村

有料 喫茶コーナー

屋台村▶

喫茶コーナー

10時～14時



5月1日(土)

まが玉・缶バッジをつくろう!

10時～14時



まが玉

缶バッジ

5月2日・3日・4日

無料 キャラ探しスーパ

プレゼントがもらえるよ!

5月5日(水・祝)

無料 「よすみちゃん」

「みすよちゃん」

と写真を撮ろう▶

10時～10時30分

13時～13時30分



おねがい

イベント当日は、感染症予防のため、マスク着用、手指消毒、体温測定、氏名・電話番号・住所の記入にご協力ください。

※感染症拡大防止のため内容を変更する場合がございます。最新情報は博物館ホームページをご確認ください。

★ギャラリー展

「2000年前の弥生土器」

～出雲型広口壺の生産～

好評開催中！7月5日(月)

土器は、その形や文様の違いから作られた時期を推定でき、「年代の物差し」とも言われます。また、同じ時期でも地域によって、形や文様が異なることから、地域関係を明らかにすることができ、重要な考古資料です。

現在開催中のギャラリー展では、2000年前の弥生土器「出雲型広口壺」を取り上げ、この壺が生産・拡散された仕組み、そして、それを支えた地域社会について紹介しています。

出雲型広口壺は、島根県の大田市、出雲市、松江市、雲南市、飯南町、奥出雲町で出土し、その数は160個体を超え、分布の中心は出雲平野にあります。

これらの壺は、焼成失敗品や製作工具、土器に混じる砂粒の特徴から遺跡群(ムラ)ごとに生産されていた。また、多少の個性はありますが、土器の形や文様が共通しています。この共通性は限られた作り手(製作工人)の間で意匠(デザイン)が共有されていること

を物語っています。

共通性を詳細に分析すると、出雲型広口壺は中野遺跡群(出雲市中野町)で基本モデルが創出されていることがわかりました。そして、隣接する遺跡群へ作り手が移動することで、基本モデルとなる意匠が伝達され、広まっていったと考えられます。広口壺の分布から、作り手が移動した範囲はおおよそ半径30kmと推定できます。

出雲型広口壺の製作技術が共有された範囲は、そこに住んでいた人たちに日常的な交流があったことを物語っています。およそ半径30kmの範囲は、2000年前の出雲地域の遺跡群が社会的に結合した範囲と考えられます。この地域の人たちが強い繋がりをもった地域社会を形成していたことがわかってきました。(坂本豊治)



出雲型広口壺(出雲市矢野遺跡)

★古文書の森をゆく⑥

「追跡中！千歯こぎのゆくえ」

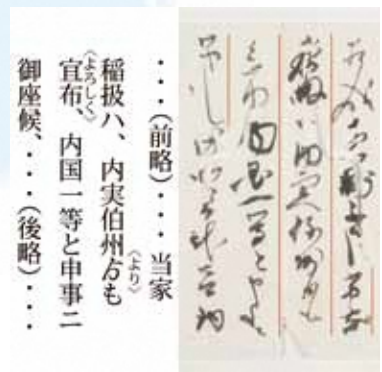
今年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」。主人公の渋沢栄一は「日本近代資本主義の父」とも呼ばれる大物です。その孫・敬三は、戦前戦後の経済界で活躍する一方、実は民俗学者としても有名でした。まさに「二刀流」だった彼が、1937(昭和12)年、民具について次のように述べています。

「日常生活の必要から技術的に作り出した身辺卑近の道具」

今回取り上げる千歯こぎ(稲扱)も右のような道具の一つで、櫛状に並んだ鉄製の歯で稲や麦の穂を扱き取る農具です(写真左)。江戸時代に登場し全国各地で愛用されました。しかし、より高性能な脱穀機が発明された大正時代以降、千歯こぎは次第に姿を消しました。



千歯こぎを使う女性(手前)
(国立国会図書館デジタルコレクション)



千歯こぎの評判(出雲市蔵)

そんな千歯こぎ、何と幕末から明治初期の出雲市域で大量生産されていたことが、最新の古文書調査によって判明しました。

生産者は、出雲市多伎町・奥田儀を本拠とした鉄師・田儀櫻井家。自家で産出した鉄を千歯こぎに加工し、日本海に面した口田儀・久村(多伎町)から船で積み出しました。主な販売先は北部九州と大坂。そこでの売れ行き・評判ともにな々だったようで、田儀櫻井家の千歯こぎを「内国一等」と評価する人もいたようです(写真右)。

いわば「明治時代の出雲ブランド」だった千歯こぎですが、肝心の実物は未発見です。近代化の波に飲み込まれてしまったのでしょうか。もし、右の実物に関する情報がありましたら、ご一報をいただけるとう幸いです。(中山玄貴)

★春季企画展

「上塩冶の山寺と塩冶氏居館」

好評開催中！5月17日(月)

今回の企画展では、出雲市上塩冶町の大井谷の奥にある大井谷Ⅱ遺跡に注目しました。この遺跡では、中世の仏堂とみられる遺構や古代・中世の仏教に関わる遺物が確認され、そのころの人びとの信仰をあつめた寺院が存在したと考えられます。この展覧会では、大井谷Ⅱ遺跡とそこにあった寺院を「上塩冶の山寺」(略して「山寺」と呼ぶこととします。

この企画展に際する再整理を通して、「山寺」は上塩冶ひいては出雲平野の古代・中世の信仰を考える上で、重要な遺跡であることが分かりました。

古代では、奈良時代後半から平安時代前半にかけて、多数の鉄鉢形須恵器はもとより、多口瓶、香炉の蓋など、他の寺院跡では見られない仏具系の須恵器が出土していることが分かりました。さらに、壺Gと呼ばれる特徴的な形をした駿河(静岡県東部)産の壺を確認できました。これは、中国地方では他に出雲国府跡(松江市)や美作国府跡(岡山県津山市)でしか見つ

かかっていない土器で、「山寺」に出雲国府と関わる人物がいたことをうかがわせません。古代の建物跡は見つかっていませんが、特別な寺院が存在した可能性があると考えられます。

「山寺」が隆盛期を迎えるのは、鎌倉時代から室町時代にかけてのことと考えられます。

「山寺」ではこのころの遺構が確認されました。南向きの山の斜面をけずって東西60mほどの平場をつくり、その上に建物が立てられたことが分かります。そして、平場は中央の大溝で2つの区画に分けられていました。西側の区画では建物の跡を確認でき、周辺から仏教に関わる遺物が出土しているため、この建物は仏堂と考えられます。一方、東側の区画は西側と対称的に岩盤が露出し、小さな池や水路の跡を確認できます。周辺では神饌として供えられた魚の骨などが見つかっており、神道に関わる場とみられます。また、平場の中央奥には、祖先をまつるための墓地が造られていました。

このように「山寺」では計画的に場が設定され、西側はホトケの空間、東側はカミの空間であった

と推定できます。「山寺」は神仏習合の時代であった中世の信仰を如実に示していると言えます。

「山寺」では、有力者の威身財と言える高級な陶磁器が多数見つかったっており、地元の有力者によって支えられたことがうかがえます。その有力者と言えるのが、大井谷の入り口に本拠を構えた出雲守護佐々木氏と考えられます。鎌倉時代、佐々木氏は塩冶郷に守護所を置きますが、これと同じころに「山寺」でも陶磁器が増えるのです。佐々木氏が滅亡した後、塩冶郷には後継の一族である塩冶氏が入り、「山寺」はその庇護を受けたようです。そして、塩冶氏が滅亡すると、「山寺」でも陶磁器は見られなくなります。まさに、塩冶氏と盛衰をともした寺院だったようです。(高橋 周)



古瀬戸の燭台(室町時代)

底径 15.4cm

★「みすよちゃん」を紹介するね!

こんにちは!



「みすよちゃん」の紹介をするね!

「みすよちゃん」は、博物館の新しいマスコットキャラクター。島根にゆかりのあるクリエイター「FROGMAN」さんがデザインしてくれたんだ。私と同じ、勾玉の頭に、よすみ(四隅突出型墳丘墓)の体。しかも体には「発掘の人」と「よすみに埋葬された人」までいるんだ。すごいよね!

「みすよちゃん」の豆知識☆

「みすよちゃん」の体って何だかつぶつぶしているよね。これはよすみ(よすみの姿を現しているよ)が造られた当時の貼り石を再現しているんだ。ちなみに私の体は、時間が経って草の生えたよすみのよすみの姿を現しているよ。これからは二人三脚ですてきな「よすみ」をみんなにお伝えしていくね!



みすよちゃん

★展示のご案内

▼春季企画展

好評開催中〜5月17日(月)

「上塩治の山寺と塩治氏居館」

●ギャラリートーク

4月18日(日)10時〜

▼ギャラリィ展

好評開催中〜7月5日(月)

「2000年前の弥生土器

―出雲型広口壺の生産―

●ギャラリートーク

4月17日(土)10時〜

▼速報展

好評開催中〜5月24日(月)

『国史跡追加指定

』「出雲国山陰道跡」

※いずれも観覧料は無料です。

★イベントのご案内

▼出雲弥生の森まつり2021

4月29日(木・祝)

5月1日(土)〜5日(水・祝)

楽しいイベントが
もりだくさん!
詳しくは1ページ
をみてね☆



★講座のご案内

●申込受付 5月1日(土)開始

▼ギャラリィ展関連講演会

●受講料 無料

6月26日(土)14〜16時

「土器をつくる人びと―出雲型
広口壺の拡散の背景を探る―

●講師 田崎博之氏

(愛媛大学名誉教授)

▼職員リレー講座

●受講料 300円

① 5月29日(土)14〜16時

『出雲国風土記』は

どう書き写されたのか

●講師 高橋 周

② 6月12日(土)14〜16時

「斐川町『結古墳群』の再整理

●講師 下江裕貴

③ 7月10日(土)14〜16時

「出雲のくらしと建物」

●講師 吾郷 誠

講座の申込について

当日受付なし 先着50名

事前申込必須(電話・FAXのみ)

●申込受付時間 9〜17時

●必要事項 氏名・電話番号・住所

※講座当日は、感染症予防のため、

マスク着用、手指消毒、体温測

定にご協力ください。

★館長古來夢

2月11日の『山陰中央新報』く

らし欄「コトノハとの出会い」に

評論家の樋口恵子さんが登場され

ていた。定年後の夫を擲揄したフ

レーズ「ぬれ落ち葉」は、言葉の

達人たる樋口さんの傑作。「微力

だけど無力じゃない」や「人生、

いろいろあらーな」も名作だ。

さて当館には、明治・大正期に

収集された考古資料群がある。長

谷川千代衛・愛雄の親子が二代に

わたり集めた遺物である。このな

かに、出雲大社境内で採集された

縄文時代の石器「石冠」がある。

キノコのような形をした、長径10

センチほどの石器である。

日本考古学がヨチヨチ歩きを始

めた明治時代、考古学者は全国を

歩き回ったり、地方の好事家から

情報収集したりして、全国的な

遺跡・遺物の分布状況を知ろう

とした。それをまとめた書籍が

1897(明治30)年に東京帝国大

学(当時)から出版された『日本石

器時代人民遺物発見地名表 第一

版』である。1902年の第四版

は柴田常恵(1877―1954)

が編集を担当した。柴田は当時、

『東京人類学会雑誌』の編集にも

携わっていた。

その『東京人類学会雑誌』第

二九二号に柴田の「出雲雑記」と

いう文章がある。ここに長谷川父

子収集の石冠の記述があり「出雲

大社の神域が、石器時代の遺跡で

あるは一奇と云ふべき」と述べる。

長谷川父子収集資料をテーマに

講演をした折、あの柴田常恵が手

にした石器という驚きもあったので、

このことに触れた概要を新聞に書い

た。すると、この記事がたまたま

松江を訪問されていた樋口恵子さ

んの目に留まったらしい。後日、葉

書が届いた。「父のことを話してく

ださってありがとう」。そう、樋口

さんは柴田常恵のご息女なのである。

考古資料は時に、歴史だけでなく

人の縁も紡ぐらしい。(花谷 浩)

(発行) 出雲弥生の森博物館
2021年4月

〒693-0011
島根県出雲市大津町2760
(TEL) 0853-25-1841
(FAX) 0853-21-6617
(E-mail) yayoi@city.izumo.lg.jp
http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

- 入館料/無料
- 開館時間/9:00~17:00
(入館は16:30まで)
- 休館日/火曜日
(祝日の場合は翌平日)
年末年始

